

謹んで初春のお慶びを申し上げます。



昨年中は監査業務に多大なるご理解とご協力を賜り誠にありがとうございました。

新しい年も本学にとってよい年でありますよう、また、皆さまにとって素晴らしい年でありますよう祈念いたしまして、年頭のあいさつとさせていただきます。

監査室長

▼INDEX▼

■【監査情報】
・文書管理に関する監査が始まります。
■【監査ニュース】
・大学病院 トップ選考を透明化　外８件
■【連載企画】
・小〇はつらいよ「リスクの把握とリスク・アプローチ監査」編
■【Audit Cafe】
・「疑うのをやめて、信じてみるのも一つのやり方だ」～伊坂幸太郎『夜の国のクーパー』より～

表題写真：伊豆沼の朝

監 査 情 報

・文書管理に関する監査の実施について

本監査は、「国立大学法人東北大学法人文書管理規程」において、監査責任者である監査室長が、法人文書の管理状況について、少なくとも毎年度１回、監査を行い、その結果を総括文書管理者である副学長（法務コンプライアンス担当）に報告しなければならないことが規定されているため、通常の内部監査とは別に実施しているものです。

平成 28 年度以降の本監査の実施にあたっては、原則として、第三期中期目標期間である平成 28 年度～平成 33 年度を 1 サイクルとして、6 年間で全対象部局を往査するローテーションを組んでおり、本年度は、本ローテーションの 2 年目にあたります。

監査は 2 月に実施する予定でおり、「国立大学法人東北大学法人文書管理規程」及び「法人文書マニュアル（平成 28 年 3 月）」に基づく文書処理状況や文書管理状況を確認することになります。

監査対象部局の皆様におかれましては、ご協力の程、どうぞよろしくお願いいたします。



監 査 ニ ュ ー ス

・大学病院 トップ選考を透明化【12/1 読売新聞】
・盗用で東大が博士号取り消し【12/1 毎日新聞】
・東北大留学生を逮捕 ヘロイン密輸の疑い【12/7 河北新報】
・総務省東北管区行政評価局 入院費担保「別方法を」27 病院に要請 保証人確保困難で【12/7 読売新聞】
・製薬会社が資金を提供して行う臨床研究 製薬会社に公表義務付け【12/8 読売新聞】
・東北大病院での創薬 規制改革で迅速化へ 国家戦略特区【12/19 読売新聞】
・京大原子炉で放射性物質漏れ【12/19 読売新聞】
・「卒論指導 結婚相手探し条件」弘前大教員 懲戒で依願退職【12/26 毎日新聞】
・文科省 国際共同研究で新制度 学術・基礎分野 競争力を向上【12/26 日刊工業新聞】

連 載 企 画



生まれも育ちも栗原築館、姓は小○ 名は卓也、人呼んで フーテンの卓 が引き起こす様々な出来事を、なぜか国立大学法人業務に長けた 妹 が見事に解決していくコーナー！
回を重ねるごとに「卓」という人物の謎は深まるばかりですが・・・第１６回目となる今回は、
「リスクの把握とリスク・アプローチ監査」というお題についてご説明します。

妹）　お兄ちゃん、何をそんなに疲れ果ててるの？

卓）　ちょっと聞いてくれよ。この前、タコ社長の印刷会社が監査対象となって、一緒に会計監査を受検したんだけどさ、「印刷機を無償借受した際の決裁を見せてください」とか「輪転機を不用決定した際の手順を説明してください」とか、細かい質問責めにあってよ。挙句の果てには、リスク、リスクって意味の分からない言葉をブツブツ呟いててよ・・・なんのことだか、全然分かりゃしないよ。

妹）　確かに、いきなりリスクって言われても馴染みが薄いから分かりにくいわね。けど、監査を受検する際に「リスク」を把握することはとても大切なのよ。今回は「**リスクの把握とリスク・アプローチ監査**」について説明するから、しっかり聞いてね。

昨年 12 月より、標準会計監査が始まりました。実地監査にご協力いただきました部局の皆様におかれましては、心より御礼申し上げます。また、これからお邪魔させていただく部局の皆様におかれましては、どうぞよろしくお願いいたします。

今季の監査は、現金・講演謝金を各 5 件程度、資産を 20 件程度、物件費・旅費及び給与的謝金を各 35 件程度監査対象として選定させていただいております。本来であれば全ての伝票(債務計上票、経費精算書、債権計上票、予算執行振替伝票、固定資産台帳等)や原議書を確認すべきですが、限られた監査時間の中でそれを達成することは不可能です。そこで、会計監査においては、リスク・アプローチを導入し、監査を実施しております。

リスク・アプローチとは、**「重要な虚偽表示が生じる可能性が高い項目」＝「リスク」**に対して重点的に監査人員や時間を充てることにより、監査を効果的かつ効率的に実施する方法です。もっとざっくりとした言い方をすると、間違いやすい箇所や影響の大きい箇所に重点的に人数と時間を割いて監査するということになります。例えば、資産関係手続においても様々なリスクが存在しますが、特に影響度の高いリスク、発生頻度の高いリスクについては、以下のとおり想定されます。

リスク種別	発生した場合の影響
亡失	資産価値が減少する。 また、大学としての管理責任が問われ、社会的信用が低下する。
資産登録（除却）漏れ	財務諸表上に正しい数字が計上されず、誤った情報を利害関係者に公開してしまうこととなる。 また、登録漏れの場合、システム管理外となり、資産管理の観点から様々なトラブルが発生するおそれがある。
資産登録内容誤り	財務諸表上に正しい数字が計上されず、誤った情報を利害関係者に公開してしまうこととなる。
管理者・所在別一覧表出力漏れ 検査の記録シールの貼付漏れ	学内で定めた所定の手続を実施していないことは合規性の観点から不適切であり、当該手続は管理者側だけではなく、使用者の管理意識の醸成も目的としていることから、出力や貼付がなされない場合、目的を達成しない恐れがある。
譲渡・借受・貸付・除却における各種手続の漏れ	学内で定めた所定の手続を実施していないことは合規性の観点から不適切であり、場合によっては、不当に大学の資産価値を減少させてしまう恐れがある。

これらのリスクに対し、以下の監査手続にて確認します。

リスク種別	監査手続
亡失	売却や私的流用の危険性がある資産及び備品的消耗品を中心に対象を選定する。 また、規格等から容易に持ち運び可能と判断できる資産等についても対象として選定する。 選定資産については、実地監査時に実査を行い現況を確認する。
資産登録（除却）漏れ	債務計上票等の情報から、資産登録漏れの可能性がある案件を選定し、実地監査時に証憑書類確認やヒアリングから判断の適正性について確認する。 また、実地監査時に不用決定手続関連の決裁を確認し、資産を廃棄した場合、財務会計システム上も除却されているか確認する。
資産登録内容誤り	試作品、資本的支出、中古品等、特殊な状況で取得した資産等を中心に選定し、実地監査時に証憑書類確認やヒアリングから登録内容の適正性について確認する。 また、複数機器により構成される資産を選定し、個々の機器の使用形態等を考慮した単位での資産登録となっているかを確認する。
管理者・所在別一覧表出力漏れ 検査の記録シールの貼付漏れ	管理者・所在別一覧表については実地監査時に出力状況を確認する。 検査の記録シールについては実査時に貼付状況を確認する。
譲渡・借受・貸付・除却における各種手続の漏れ	譲渡・借受・貸付・除却手続きについて、「物品管理業務マニュアル」に定める手続がなされているか確認する。 特に無償譲渡や除却等については、財源等の制約に抵触していないかを含め、重点的に確認する。

以上が、リスク･アプローチ監査の参考例となります。

監査時に選定した伝票やヒアリング時にお伺いした質問事項は、その全てがリスクに対してどう対応しているか確認するためのものであり、「何となく選んだ」や「何となく聞いてみた」という類のものは、基本的には存在しません。

リスク･アプローチを標榜している以上、抽出や質問の意図が見えるような監査実施を心がけていくつもりですが、分かりにくい時は、実地監査時、もしくは後日でも構いませんので、監査室員までお声がけいただければ幸いです。

卓）　リスクを把握することが重要だってのはよく分かったよ。それを踏まえて、
　　知り合いの労働者諸君のところへ、リスク･アプローチ監査に行ってこようかな。
妹）　お兄ちゃん、自分の「改善状況回答書」すら、まだ作ってないでしょ。まずは、
　　自分のリスク管理をしっかりしてよね！
卓）　それを言っちゃぁ、おしまいよ。

このコーナーでは、皆様からの疑問・質問をお待ちしています。
日頃の業務の中でのちょっとした疑問（なんでこんな作業が必要なのだろう）や、
いまさら上司や先輩に聞けないけれど、実はよく理解できていないことなど、
いただいたご質問には出来る限り誠意をもってお答えします！
ご質問は、メール、ファックス、お手紙で！（匿名でも大丈夫です）

Audit Cafe

毎月、監査室のスタッフが交代で「つぶやく」このコーナー！
今回のつぶやきは、「疑うのをやめて、信じてみるのも一つのやり方だ」～伊坂幸太郎『夜の国のクーパー』より～と言うお題のようです。
いったいどんな話になることやら・・・。

5 回目の投稿となります。
日々、平々凡々と暮らしている中でネタになるエピソードを模索しておりましたところ、高校時代を思い出すきっかけがありましたので前回（第 83 号）からの続きとなりますが、事の顛末を記したいと思います。

前回、宮城県の北部に位置する母校（高校）の入学後に行なわれた対面式（新入生歓迎会）を記したが、
今回は、私が高校時代全精力を注いだ『**山岳部**』についてのこと、だ。

【接触編】

はじめに断っておくが、私はインドア派である。

『山岳部』への入部のきっかけは、入学後、日が浅く、右も左もわからない時期に先輩から「おめら、コーヒー飲まねが！（君たち、コーヒーを飲まないかい！）」と声をかけられたことから始まる。
先輩の誘いを断る度胸は、新入生に備わっていない。
友人と先輩について行くと、別の先輩が妙な器具でお湯を沸かしている。



後にガスストーブだと先輩に説明を受けるが、初めて見る器具のシンプルな構造美と煮立つヤカンに心をわしづかみにされる。
続き、妙な入れ物（後にシエラカップという名前と知る）に、インスタントコーヒーが雑に入れられ、煮立ったお湯が注がれる。



「うめがら、飲んでみろ（とてもおいしいから、飲んでごらんよ）」という優しい先輩の言葉に「**押忍（オス）！**」と、返すしか選択肢がなく、「砂糖はないですか」とは口が裂けても言えない状況、だ。
妙な入れ物のせいか、煮立ったお湯のせいか、コーヒーは中々冷めず、時間をかけて飲み干すと、「うめべ！（すごくおいしいいだろ）」と満面の笑みの先輩。
そして、「おめら、見込みあっぞ（君たち、将来有望だよ）」と仁王立ちした先輩が、わら半紙を差し出してくる。
自分たちに何の見込みがあるのか訳が分からず、わら半紙を受け取ると、先輩から名前を書くようにとボールペンが渡される。
コーヒーをご馳走になった負い目があることから、素直に応じたが、記入後、『入部届』と知る、しかも『山岳部』だ。



拘束は続く。
先輩から足のサイズを確認され、登山靴は良いもの（より高額なもの）を買ったほうがいいとアドバイスを受ける。今度は、『登山靴の注文書』、だ。
今思えば、囲い込み商法そのものだが、当時はそのような知識も否という度胸もないため、「価格が万単位なので、親と相談させてください」と言うのが精一杯で、断りを入れた所までは記憶があるが、どのようにして開放されたのかは覚えていない。

【発動編】



無事に入部を果たし、活動開始となるところだが、兄弟校との伝統の定期戦があり、学校あげての応援にも力を入れており、該当する体育会系の部は応援が免除となるが、山岳部は該当競技ではないため、きつい応援歌練習に精を出す日々が続く。

ここで、『**競技**』と書いたが、登山に『**大会**』があることを入部して知ることとなる。当時のことを思い出しながら書いているので、現在の内容と変わっているかもしれないが、主な大会は、高体連主催の総合体育大会と新人大会だったと記憶している。
競技は1チーム4名で体力・歩行・気象・医療・炊事・設営といった項目について、技術と知識が問われ、100点満点の減点法により優劣が決まったような気がする。

簡単に解説すると、

- ○ 4名で出発点から到着地点まで決められた時間内に山の中を歩くのだが、ポイントポイントに審査する先生が（隠れて）おり、体力・歩行と山ですれ違う時の挨拶の『さわやかさ』が審査される。
- ○ 行程中に医療の確認として、携行した薬箱の中身の確認がなされ、「ねん挫した場合」、「虫に刺された場合」どうするか等質問があり、回答しなければいけない。
- ○ 到着地点に着くと、テントの設営を行うが、笛の合図で設営が始まり、10分以内で完成させなければならない。
- ○ 気象は夕方にラジオで放送される気象通報をもとに、天気図を作成し、明日の天気を予想する。各地の風向き、風力、天気、気圧と気温が淡々とラジオから流れるのを、聞き漏らさないよう天気図用紙に落とし込む作業は、二度とやりたくない事の一つである。
- ○ 最後に炊事であるが、食事のメニューが計画通りの内容かどうか、カロリー量の適正等が見られる。レトルト食品オンリーの食事が一番楽なのだが、必ず他の食材を加えることとなっており、メインの料理（特に肉）を審査する先生に味見させると加点となるという噂が流れていた。

長々と書いてしまったが話を戻したい。
入部最初のイベントが**新入生歓迎登山**だ。
宮城県、秋田県、岩手県の三県にまたがる栗駒山が、我が校のホームグラウンドである。
栗駒山の中腹には高校が所有する山荘があり、高校の行事・合宿等で使用されていたが、新入生歓迎登山・秋山登山を兼ねて、山岳部が毎年の開所閉所を行っていた。

事件はそのとき起こる。
顧問の先生が運転する車に揺られ、山荘に到着し、各自担当が割り振られ、部員全員で開所のための清掃、夕飯の準備を行っていたところ、顧問の先生が飲み水はないかと聞いてきた。
友人が持参した水筒を差し出すと、顧問の先生が受け取り、ゴクゴクと喉を鳴らして飲みはじめ、何かのCMみたいなセリフをゆっくりとしたテンポで感情たっぷりにこう言ったのである。

「かぁ～～、やっぱり、山の水は、うめな！（格別においしいな！）」 と。



その時、正直者の友人が、何のためらいも無く、無邪気な眼差しでうれしそうに
「先生、それ学校で汲んできた水っす」･･･ ぷ ぷ プッ
と、会心の一撃を見舞った上に、笑いをこらえきれずに噴き出したのだ。

顧問の先生は、みるみる顔色が変わり、怒りに打ち震えながら激高する。
「なぬっ！（どういうことだ！） 山で飲む水はうまいと言ったのだ。
よぐ聞げ、普通、人に水筒を渡すときは、中身を伝えて渡すものだっ。
今回の場合は、学校で汲んだ水ですが、先生どうぞ、と 言って渡すのが常識だっ。
わがったが！（君たち理解できますよね！）」
この後、部員全員が巻き添えを食らい、結構な時間『有意義な教え』を乞うことになり、後に部員の中で、『**山の水はおいしいね事件**』として語り継がれることになる。

新人歓迎は続く。
始めての登山は、山荘を利用するのでテントの設営は無かった。
山荘に電気は通じているが使用せず、蝋燭や、ヘッドライトで明かりを取り、夕食が始まる。
顧問の先生には、運転して連れてきていただいた御礼としてお酒を提供しており、さっきの事件は無かったかのように上機嫌、だ。
新入生は自己紹介、先輩方は山で経験した面白い話、そして顧問の先生の『熊と格闘した』武勇伝が語られ、談笑が続いたが、部長の一言で新入生は恐怖のどん底にたたき落される。



話はこうである。
季節は春だが、この山荘が雪に覆われ屋根しか見えない状態の時だそうだ。
一人の画家が下山途中に道に迷い、山荘にたどり着いたが、この場所で息絶えたらしい。
その画家が描いた遺作がこの山荘にあるのだという。
部長が、その絵の下に、新入生の名前を書いた紙を置いてきたので、回収して来いとの命令、だ。

山荘は木造で、歩くたびにミシミシと鳴き、照明を点けていないので恐ろしさ100倍である。私を含め、7人の新入部員全員が、一様におののく。
その中の一人が取り乱しながら懇願する
「無理です。絶対無理です。先輩、何でもするんで、それだけは本当に勘弁してください。」と。
哀願する彼の顔は、涙と鼻水でくしゃくしゃになり、蝋燭の炎で照らし出された顔が鬼気迫り、今でも夢に出てくるほどトラウマとなっている。
そして、その鬼気迫る顔は、私が今まで視聴したホラー映画や恐怖映像でも超えるものはないと確信している。
その彼の悲痛な叫びが叶ってか、2名1組で回収することが許される。鬼の目にもなんとか、だ。



無事名札を回収した英雄（新入生）に向かい、酔った顧問の先生が にやつきながら言う。「泣いて、勘弁してくれと言ったのは、俺が顧問になって、おまえらが始めてだ。」と。
そして、部長が真顔で言う。「**これは肝試しで、新入生歓迎登山の恒例行事だ。**」と。
部長の視線が顧問の先生に向けられていたのは、暗に顧問の先生にやらされているのだ、というメッセージが含まれていたかは確認されること無く、夜は更けていった。

【追憶編】

この出来事で結束が深くなった訳ではないが、このときの新入生メンバーは引退まで欠けることなく活動することとなる。
高校生活という短い時間の中で、数は少ないが、山頂に辿り着くことができた。
自分の足で登ったという達成感や爽快感、感動的な眺めを仲間と堪能でき、登山の素晴らしさを語りたいところではあるが、それらを凌駕する部活動での記憶が、良い思い出を打ち消す。

『山の水はおいしいね事件』の『熊と素手で格闘した経験』を持つ顧問の先生から情報が入る。国体が沖縄で開催される、と。



情報提供を受けた後、友人が皆に尋ねる。
「沖縄には飛行機で行ぐんだっちゃね！（行くんだよね）」、と。
部員全員、飛行機に乗ったことなど無く、皆で沖縄に行こうぜと盛り上がり、ランニングと筋トレ、テント設営の時間短縮と地味な活動にも活気がでた。

その結果、国体予選も兼ねた新人大会で比較的良い評価をいただき、沖縄入りへの期待が最高潮に達し、旅費をどうするか皆で真剣に悩み始めたころ、だ。
『熊との死闘の末、背中に傷を負った』心やさしい顧問の先生が、部員を職員室に集め、満面の笑みで、またしても感情たっぷりに話し始める。

沖縄には競技できる山がなく、新人戦での評価は参考記録にしかならない（沖縄行きは絶対に無い）ということを・・・

部員全員が、フリーズし、言葉を失い、地味に取り組んだ放課後の記憶が、走馬燈のように浮かんでは消え、『熊〇し』の顧問の先生に対し、〇意を抱いたのは遠い昔の思い出だ。

こうした高校時代の心温まるエピソードや、部活動で同じ目標を持った仲間達との素晴らしい時間を娘達に語って聞かせると、黙って聞いていた娘２号が突然こう言う。

「そんなところにいたら性格ゆがむよね」と。

最後になるが、制覇した山の数を算えながら、最近読んだ本の中にこんな一文があったことを思い出す。

「疑うのをやめて、信じてみるのも一つのやり方だ」

新年早々わたしの思い出話にお付き合いいただき、ありがとうございます。
本年もどうぞよろしくお願いいたします。

（監査室 S）

最後までお読みいただきまして誠にありがとうございました。
引き続き、「おうでぃっとめーる」をどうぞよろしくお願い申し上げます。
バックナンバーは、監査室 WEB ページをご覧ください。

◆その他、各種お問い合わせは…

【電話でのお問い合わせ】
東北大学監査室
022-217-4874（監査室長：佐藤）
022-217-5680，4880（菅野、小原、綱川、深沢、杉山）

【メールでのお問い合わせ】
東北大学監査室
kansa@grp.tohoku.ac.jp

メールマガジンの一部または全部を無断転載することを禁止します。
© 2010 Audit Office Tohoku University